

# MailBox

メールボックス

## 経済同友会出向者からの近況報告 #5



From : 篠原 岳志

復興庁 宮城復興局  
政策調査官

To : 経済同友会

## Subject : 被災地で出会った魅力

復興庁宮城復興局へ出向となり、1年3カ月が経過しました。

私は北海道札幌市で生まれ育ち、2003年に森永乳業に入社、茨城県、兵庫県と転勤し、2016年4月に宮城県へやってきました。これまでの経緯の通り、宮城はもとより、東北に縁もゆかりもなく、さらに国の機関への出向ということで、栄養食品(主に赤ちゃんの粉ミルク)の営業担当だった自分に何ができるだろうと、不安を抱きつつ宮城復興局の初出勤の日を迎えたことを覚えています。

宮城復興局では被災地の産業振興、企業支援を主な業務としています。被災した企業は補助金等で工場の再建は果たしたものの、売り上げ、販路が戻らず、さらには人口の流出で働き手が不足しているのが現状で、復興庁の支援事業を企業や自治体に紹介し、ソフト面からの支援を実施しています。

これまで関わった業務を簡単に紹介すると、大手企業のシーズと被災地企業の課題をマッチングさせ、新たなプロジェクトをスタートさせる「結の場」、民間企業からの出向者とシンクタンクがチームを組んで被災地企業の新事業創出を支援する「ハンズオン支援」、被災地企業で大学生のインターンを実施し、企業の人材獲得に資するとともに地域産業の振興に寄与することなどを目的とした「復興・創生インターン」など、多岐にわたります。この他にも、復興庁内でも数少ない食品メーカーからの出向者として、出向元の森永乳業のシーズを活かし、被災地の主産業である水産加工業の新商品開発、販路開拓の支援に取り組み、何らかの形を残していきたいと考えています。

これらの事業に携わる中で共通していえるのは、甚大な被害をもたらした震災を経験し、そこ

から立ち上がった企業の経営者の方々や、発災後のボランティア等を契機にそのまま被災地に移住し、起業している方々は皆、自社や自己の利益を超えて、被災地を盛り上げようという熱い志を持って、生き活きと仕事をしているということです。これまでのサラリーマン人生では到底知り得ない考え方や職業観を目の当たりにし、そのような方々と一緒に新しく、面白い取り組みを行っているうちに、赴任当初抱いていた不安は払拭されていきました。

二つの「風」を防ぎましようと言われます。「風化」と「風評被害」です。私が阪神・淡路の震災を経験している神戸に住んでいた時でさえ、東日本大震災については3.11の日にニュースで目にする程度でしたし、宮城でもニュースで取り上げられる頻度は少なくなってきました。これからも二つの「風」を防ぐべく、東北の魅力的な人々や新たな取り組みを発信していきたいと思います。

早速の発信ですが、2月に家族で山元町へいちご狩りに行きました。これまでに食べた中でも最高に甘くておいしいいちごでした。オススメは2月～4月くらいでしょうか。また、石巻市の牡鹿半島には、海に臨む古民家を改装したカフェや食堂があります。そこには落ち着いた雰囲気とおいしいご飯があり、とても癒されます。

気になった皆さん。東北に足を運んでみませんか？



「結の場」ワークショップの様子



家族でいちご狩り@山元町